

1月1日の能登半島地震では多くの人たち、多くの地域が被災しました。能登半島という特別な環境や国・県のこの地震に対する対応は、支援・復旧・復興に、これまでの災害の比ではない遅れを生じさせ、被災者・被災地は大きな苦労を強いられました。

そんな中、穴水ササユリ会の活動も停滞せざるを得ませんでしたが、困難な中でも希望を持って、前を向いていくために役立てられないかとなんとか活動を再開しました。いろいろな思いを持たれる方もいるかとは思いますが、ここは頑張りどころという思いです。

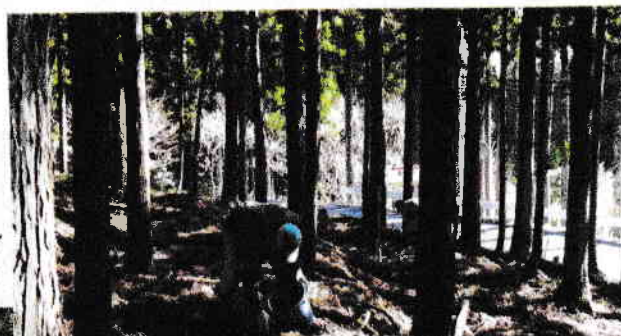
越の原群生地で種蒔き

4月12日、3月に予定していた実施できなかった「ササユリの種蒔き」を行いました。困難な時期でもありましたから、一部の動ける会員のみで行いました。

昨年11月に採取していた種を土と混ぜ合わせ、越の原群生地のあちこちに埋め込みました。5年から7年後に花を咲かせてくれるはずです。

当日の参加者は

道本 巖夫会長 勝井 寛
幸崎 久史 滝川 敏明
滝井 元之（敬称略）



種を蒔くというより
うめ込む作業です





越の原群生地の整備作業

支柱設置 電気柵下の草刈り

6月7日、越の原ササユリ群生地のササユリは例年は6月20日前後に開花していました。しかし、今年は5月末から咲きはじめ、この6月7日にはかなりのササユリが咲いていました。

都合がついて集まった会員はササユリの場所がわかるように支柱を立てたり、イノシシ対策の電気柵の下の草刈りなどの整備、そして、道路の反対側の山の下草刈りなどを行いました。このとき、ザーッと数えただけで550株ほどのササユリが確認されました。

6月20日にあらためて現地を訪れてみると、まだ多くのササユリが咲いていました。さらに、新たに多くの株が確認され、全体としては600株を超えるのではないかと思います。

2019年には10数株ほどしか確認できなかったことを考えれば、ササユリ群生地の再生を願って取り組んできた成果が出てきていると思われます。

また、一つ、分かったことは、越の原群生地のササユリはやはり6月20日前後に開花するようだという事です。では、5月末から6月初めに咲いていたのはなぜか？ 考えられることは、先に咲いたササユリは群生地再生のため、後から球根を植えたものが咲いたのではないかということです。越の原群生地自生のササユリは別なのではないかと思えます。

しかし、これは、あくまでも事務局の勝手な解釈ですので断定できるものではありません。今後、研究する必要があるようです。

当日の参加者は

道本 巖夫会長	伊藤 繁男
勝井 寛	幸崎 久史
滝川 敏明	谷川 毅
中前 和人	宮本 浩司
滝井 元之	(敬称略)

